

2011年 3月26-27日 関西理学療法学会 1泊研修会 テーマ【治す】

モーニングセミナー 『こんなセラピストになりたい』

第一岡本病院 福島 秀晃

本学会のコンセプトは「治せるセラピストの育成」であり、本学会員にとっては周知されていることだと思います。今回の研修会のテーマである【治す】ということは我々セラピストにとっては当たり前のことかもしれませんが、非常に深く、難しいテーマでもあります。

多様化する価値観、不安定な社会情勢でリハビリテーションを取り巻く環境の変化の中、治すこととは何か？治ったとは何なのか？セラピストだけでなく、対象となるクライアント（病院では患者様、施設では利用者様、学校教育では学生）にも個人差があると思います。客観的データを持って治療前よりも治療後に著明な改善を認めたとしてもクライアントの満足度には至らないこともあります。一方で客観的データに著明な改善を認めなくても治療として関わることでクライアントは治ってきたと実感されることもあります。クライアントを満足させる治療見解を統一させることは難しいかもしれません。しかし治療者であるセラピスト側には資格を与えられ職務を全うする以上、クライアントからの対価に応じたセラピーを提供しなければいけないという義務があります。セラピストになりたいという動機付け（初心）があって教育を受け、国家試験に合格すればセラピストになれます。一方、セラピストとして働き始めてからは本セミナーのタイトルにもある『こんな～』という付加価値が必要になってきます。それは何を問われているかを考えた時、セラピストの中でもより専門性が求められてきていると考えられます。

私自身、セラピストとなって丸10年が経過しようとしています。この10年間で医療及び学校教育情勢は大きく変化してきました。また、専門性という観点では運動器系の理学療法士として肩関節疾患に関わることも多くより深い視野を持って治療をしていけるよう努めて参りました。本セミナーではセラピストになりたいと思った動機付けからセラピストとなってから現在に至るまでの経緯を述べさせていただくとともにセミナーに参加して頂いた先生方からも意見を聞かせて頂きたいと考えています。セラピストとして尽力されている諸先生方と意見交換させて頂きこれらの内容が、来年度からセラピストとして臨床に臨まれる先生、専門性を見出されてきた新人・中堅レベルのセラピストの先生方の今後の発展に寄与すればと考えております。